

教 学 半 也



令和7年8月25日

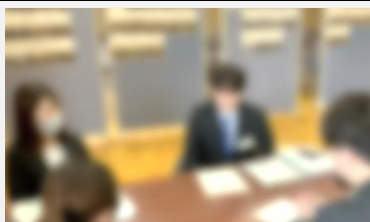
No.11

初任者研修に
たずさわる全読者対象

<初任者研修> つながりの中で成長する教師 ～自己課題設定の背景と解決のための実践～

初任者の先生方は、研修を通して「自己課題」を設定し、その解決のための実践を重ねています。I中学校のM先生（美術科）は、自己課題を「『できた、分かった』を大切にしたい授業づくり～授業準備に重点を置いて～」と設定し、実践しています。その過程には、校外の先生方とどのような関わりがあったのでしょうか。これまでの研修の様子と共に紹介します。

4月15日 スタート研修



目指す授業についての語り合い



インタビュアー

スタート研修では「目指す授業」について語り合いました。4月時点ではどのような授業を目指していましたか？

まだ授業が始まったばかりでイメージがわからない部分もありましたが、自分自身が経験してきた中学校の授業が楽しかったので、**生徒たちが「楽しい」と感じられる授業にしたい**と考えていました。



M先生

5月13日 授業力向上研修Ⅰ

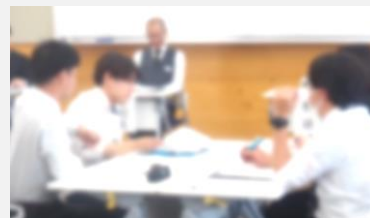
M中学校
W先生の理科の授業参観

授業力向上研修Ⅰ（先輩先生の授業参観）ではどのようなことを感じましたか？

とても刺激を受けました。自分の授業での生徒の学びの姿と、W先生の前にいる生徒の姿を比べると、表情、主体性、対話する内容や様子が明らかに違うなと思いました。どれもが私の授業とは何か違うと感じたんです。



その気付きを、ご自身にどのように生かしていこうと思ったのでしょうか？



授業研究会

W先生は生徒とのやりとりが滑らかで、常に生徒と関わりながら授業をしていました。また、自由に使える実験道具が理科室の中央にあって、**生徒が必要に応じて自分で実験道具を決め出していました**。私はいつも一方的に説明していたり、道具も一律同じだったりで、**生徒とのやりとりを増やし、生徒が自分で用具等を選ぶことができる環境づくりをしたい**と思いました。



6月3日 教師力向上研修Ⅰ オンライン研修



教師力向上研修Ⅰでは自己課題を設定しました。研修を通してどのような自己課題を設定したのでしょうか。

「できた、分かった」を大切にしたい授業づくり～授業準備に重点を置いて～と設定しました。

「目指す授業」を考えている頃は「楽しい授業」という言葉を入れようと思っていたのですが、先生方と話しているうちに、「楽しい」の中身はきっと生徒にとって「できた、分かった」ということなんだろうと思ったからです。また「授業準備」を重点にしたのは、多くの先生方が資料の準備、教材研究等に力を入れていることを知り、授業までの充実した準備が生徒の「できた、分かった」につながるだろうと感じたからです。



6月24日 教師力向上研修Ⅱ
5年経験者とのクロスエイジセッション



5年目の先生方との語り合いを通して、課題解決のための見通しをもつことがねらいの研修でした。研修を通して学んだことから、自己課題解決のための取組を教えてください。



5年目の先生から
学ぶM先生

印象的だったことは学習プリントの違いです。私は伝えたいことを優先するあまり、授業の中で生徒自身が学ぶべきことを全て載せた学習プリントを配付していました。先輩先生の学習プリントは空欄が多く、その意図を尋ねると、「ここは生徒が考える部分」と返事があり、生徒の意識に沿った授業づくりをしていることが伝わってきました。



研修を受け、自己
課題解決のために
行った主な実践
(1学期)

【生徒の意識に沿った教材研究、授業構想】

- ・生徒の意識に沿った授業構想をするために、まずは自分自身がやってみたり作ってみたりする。その中で出てくる疑問や難しさをメモし、その解決のための支援を考え、「できた、分かった」につなげる。
- ・生徒が自分で選んだり決めたりできる「材料・用具ボックス」を置く。



早速学んだことを基に授業づくりをしています。「材料・用具ボックス」を置いてみたところ、生徒が自分の思いを表現するために、材料や用具の特徴を基に自分で必要な用具を選び、工夫して使用する姿が見られました。

ポスターデザインを学習する時間、これまでの私ならポスターデザインに見られる工夫を一覧にして生徒に伝えていたと思います。ですが、今回はまず自分自身でポスターを鑑賞することからスタートしました。その中で、ポスターを鑑賞しながら生徒から上がった「いいなぁと感じるのはなぜだろう」という声を取り上げてから話し合う活動を行ったところ、生徒たちは自分たちで工夫点を見つけていきました。そんな生徒たちの姿は、授業力向上研修Ⅰで参観したM中の生徒の姿と重なるところがありました。これからも生徒目線を大切に、生徒の「できた、分かった」につなげるために研修や授業づくりに取り組んでいきたいです。

M先生は1回1回の校外研修の学びを、ご自身の授業で具現しようとする中で、「楽しい授業」といった漠然とした「目指す授業」のイメージから、「『できた、分かった』を大切にした授業づくり～授業準備に重点を置いて～」と、具体的な自己課題を設定しました。そして、「できた、分かった」を実感する生徒の姿に出会うために「授業準備」を入念にして、生徒の意識に沿った授業を構想し、生徒が主体的に取り組んでいくことができるようにしたいと実践を重ねています。

このようなM先生の姿の背景には、校外研修における初任者同士の関わりをはじめ、先輩先生の授業参観や先輩先生との関わりがありました。M先生は様々な先生方と関わることで視野を広げ、自身の成長につなげています。

最後に、M先生は、校内の先生方への思いも次のように語っていました。

優しく温かい先生方で、とても有難いと感じています。困ったときはいつでも相談できます。私のことをいつも気にかけてくださっています。校外研修の日が近づくともコーディネーターの先生はいつも声をかけてくださいます。自分のこと以上に私のことを気にかけてくださっている同僚の皆さんにはとても感謝しています。そんな先生方のような教師になれるよう、引き続き頑張ります。



各校の初任者の先生方は「自己課題」を設定し、その解決のために日々研修に取り組んでいます。このようなM先生のように、校内外の先生方との関わりを通して、よい影響を受けながら日々成長していくことを大切にしていることと思います。引き続き、校内の先生方が初任者に寄り添い、一丸となって支えていく校内支援を今後ともよろしくお願いいたします。